

須藤精密、20%能力増強

高精度測定顕微鏡導入 自動化を推進

半導体装置用治具

【立川】須藤精密(東京都瑞穂町、須藤恒男社長、042・557・5700)は、半導体製造装置用治具などの生産性と品質の向上を図るため、設備増強を進める。9月までに4軸ワイヤ放電加工機や数値制御(NC)フライス盤など計5機種を新たに導入。12月には高精度測定顕微鏡を加える。自動化を進めて約20%の生産効率向上を目指す。

12月に導入する測定 崎市高津区)製で、顕微鏡はミットヨ(川)デジタルカウンターの最

小表示量を1ミ、0.5ミ、0.1ミ(マイクロは100万分の1)に切り替え可能。高分解能測定を行うことが出来る。総投資額はワイヤ放電加工機など計5機種と測定顕微鏡を含めて約7000万円。

須藤精密は直径0.15ミリの細穴を0.15ミリのピッチで穴あけす

る微細加工などを行っている。4軸ワイヤ放電加工機などの新設備を導入して生産効率を高めるとともに、高精度測定顕微鏡を設備に加えることで品質管理体制を強化する。

また同社には試作品の開発依頼が多く手作業での加工が必要になる。そのため汎用フライス盤も新たに1台加

えた。須藤社長は「若い職人が増えている。汎用機で技能伝承を図りながら、生産性向上のための設備増強を同時に」と話す。